

2021年度委員会事業報告書

グループ名 観光グループ

委員会名 稲荷どっと混む委員会

担当副理事長 谷口 慶一
委員長 神谷 淳
副委員長 山本 恵介
総括幹事 阪本 研介
拡大幹事 河合 宏享
運営幹事 松井 祐介
志賀 雄太
広報幹事 山本 知代
浅井 慎平
メンバー 田口 貴史
アドバイザー 美山 徹薫



【担当事業及び担当例会】

観光グループ

縁日参りプロジェクト～あつ、今日ご縁日じゃん in 豊川稲荷～

【実施効果及び成果】

【1、記者会見】

→報道陣向けに、複数回記者会見を開き(市役所、愛知県庁、観光協会、名古屋鉄道連携)趣旨説明をいたしました。その後のメディア実績(NHK、Yahoo、中京テレビ、愛知県観光課、ファッションプレス、女子旅プレス、日刊ケリー、中日新聞掲載5回、朝日新聞1回、東日新聞5回、東愛知新聞4回)から本事業の狙いを周知する事につながったと考えられます。

【2、夜間参拝の演出・運営】

→縁日参りプロジェクト実行委員会と共催の形を取る事により、常設では国内随一の光演出の設備が豊川稲荷に設置されました。クリエイティブカンパニーネイキッドによる、演出プランは多くの若者にインスタグラムなどのSNSにてシェアされるなど反響を生みました。

【3、防火対策マニュアル作成・実施】

→実施日には、警察の立会いがあり安全を確認していただくなど、マニュアルの安全性の担保が取

れました。

地元消防団に所属するLOMメンバーにも支えられ大きな事故もなく終えることができました。

【4、コロナ対策マニュアル作成・実施】

→本事業が継続して行われるよう、新型コロナ対策を十分考慮しマニュアル作成を行い実施しましたが、想定できない箇所での人の滞留が発生したりしてしまいました。来場者の動的な流れは、都度移り変わる部分があるので、現場での柔軟な判断が求められますが、LOMメンバーの機転の効いた運営に支えられ、大きな社会的批判に繋がることなく実施できました。

コロナ感染対策としてディスタンスポールの設置や3ルートでの列を作り入場ゲートまでの感染症対策を実施することが出来た。また、境内でも消毒・検温の実施を行い想定通りの案内をすることが出来ました。

【5、夜間営業(夜市開催)の調整】

→各商店街との連携を図り、夜市の開催を実施することが出来、参拝客の満足度向上につながりました。緊急事態宣言中はキッチンカーの出店はありませんでしたが、従来夜間営業していない店舗もお店を開け、大きな経済効果につながりました。

7月は閑散期として認識されていた商店街として、コロナ前と比較しても本年度の7月の売り上げの方が高く終えることができたとお喜びの声をいただきました。

【6、駐車場の把握】

→豊川稲荷周辺の駐車場を把握し、HPなどでアナウンスしていましたが、実施日初日は稲荷大駐車場で交通整理する人員を配置しておらず、駐車場内にて渋滞が起こるなどのトラブルが発生しました。迅速に、豊川稲荷と協議した結果翌日以降豊川稲荷サイドで、コーンを設置したり人員配置をする流れとなり、夜間駐車場の仕組みができました。

【7、関係者からの聞き取り】

→豊川稲荷の中で、月に数回会議を重ね、検証や実施を繰り返しました。その中で、トライアンドエラーを繰り返し、実施をしていきました。この事業をきっかけに限定御朱印が生まれるなど、新たなコンテンツが生み出されました。豊川稲荷内部も縁日参りの為に再組織化され、継続して行う体制作りへと移行しております。

→豊川稲荷周辺商店街とは、定例会やグループラインを作成するなど、細やかな報告や連絡を行いました。その中で、運営上の疑問点など都度解決していきました。当初は、本事業を疑問視する声もありましたが、現在では事業継続を望む声が大多数で、今後も積極的に縁日を盛り上げていく流れとなっております。

【8、実行委員会への引継ぎ】

→2021年9月22日の実施を最後に豊川青年会議所は、縁日参りプロジェクト実行委員会の後援に回る形となりました。縁日参りプロジェクト実行委員会とは、豊川青年会議所の有志メンバーや豊川市商工観光課等で構成され、事業継続の為に運営全般を行う組織です。現在では、2021年11月特別期間の企画や、2022年度の年間計画をベースに、引き続き豊川稲荷や商店街と連携が図れています。

→備品(ディスタンス提灯、HP)、運営マニュアルアップデート版、業者リスト

今回の縁日参りプロジェクトに関し、多くのメディアに取り上げられた結果、コロナ禍でありながら予定観光客数3万人に対し約2万人の集客に成功いたしました。

開催期間が予定より2か月短くなってはしまいましたが、7月、8月、9月ともに多くの観光客が豊川稲荷を訪れてくれたことを考えると、定期的な観光客を呼びこむことに成功したと考えます。

また、今後本事業を引き継ぐ組織として縁日参りプロジェクト実行委員会が担ってくれるようになり、今後とも事業が継続するための仕組み作りができたと考えます。

それに伴い、メンバーによる運営がもたらした成果でありますので対内目的も達成されたと考えます。

【反省並びに今後の課題】

【1、記者会見】

→特になし

【2、夜間参拝の演出・運営】

→特になし

【3、防火対策マニュアル作成・実施】

→特になし

【4、コロナ対策マニュアル作成・実施】

→滞留時間予想が外れた点や、日照時刻からの逆算による、運営方式のアップデートを行いました。

【5、夜間営業(夜市開催)の調整】

→キッチンカーは8月以降見送り、緊急事態宣言中の営業時間短縮

【6、駐車場の把握】

→実施日初日は稲荷大駐車場で駐車場内にて渋滞が起こるなどのトラブルが発生しましたが、大きな道路渋滞は起きなかった。

【7、関係者からの聞き取り】

→回覧板が届いていない店舗があった。

【8、実行委員会への引継ぎ】

→豊川青年会議所と共催という形をとっていたが、その周知が至っていないという指摘の声があった為、引き続き周知活動を行う必要がある。

・青年会議所メンバーの出席率が3か月平均30%程度にとどまってしまったことは大きな反省点といえます。

コロナ禍であったこともありましたが本事業の趣旨、目的を周知し、参加を促す工夫が必要であったと考えられます。

【委員長所見】

本事業は、交流人口の拡大という我がまち豊川における地域課題に対し、具体的な解決策の一つとして豊川最大の観光資源である豊川稲荷を活かし、定期的な観光客を呼び込む仕組み作りに取り組みました。

事業規模がかなりスケールの大きいものであったため、やるべきことが多岐にわたり、当委員会だけではどうにもならない作業量でありました。加えて新型コロナウイルスの感染拡大が広がる中、予定通りイベントが開催できず、何度もリスケジュールすることになり大変皆様にご迷惑をかけることになりました。

それにより本来当委員会がやるべきことを期限内に終わることができず、結果、縁日参りプロジェクト実行委員会の力を借りなくてはならなくなったことを大変不甲斐なく思います。

それでも本事業を最後まで終わることができたのは、JCメンバーの皆様や関係者様のご協力があったからです。

イベント当日、沢山の観光客が豊川稲荷に訪れてくれて大変うれしく思いました。皆声をそろえていい事業だねと言ってくれる中、心の底では私はたいして事業に貢献できなかったのにそういわれるのが大変心苦しかったです。

様々な葛藤の中で行った本事業でありましたが、ある日娘が縁日参りに行った思い出を絵に書いて私にプレゼントしてくれました。そして一言頑張ったねと言葉をかけてくれた時、心からこみ上げるものがありました。その時、この事業にかかわれて本当によかったと思いました。

最後に、縁日参りは次年度以降も実施されていくこととなり、本事業の目的である「定期的な観光客を呼ぶ継続性のある仕組み作り」については、一定の成果を達成することが出来たと考えます。

しかし、まだ縁日参りはスタートの段階で、もっと世の中に周知され、これからさらに発展していくことで初めて本事業が成功したと言えるものと思っています。

私も最後までこの事業の成功を見届けていく所存でございますが、今後何らかの形で皆様にもご協力をお願いすることがあるかもしれませんが、その時は是非ともこのまちの為に力を貸してください。よろしく願いいたします。

【担当室長所見】

本事業は、まちを巻き込んだ包括連携による、いまだかつてない規模感の事業であったといえます。

2021年度豊川青年会議所観光グループの取り組みの一つ、今あるものを活かす事業＝豊川市最大の観光資源といえる豊川稲荷および周辺商店街を活かし、交流人口増加を目指す事業として企画準

備を進めてまいりました。

結果的に見ると、豊川稲荷580年の歴史初となる、夜間参拝企画を進める事になりました。サラリーマンである担当委員長と共に、個性あふれる委員会メンバーによる、壮大な準備は、あらゆる困難の連続でした。

経験にない事、新型コロナウイルスによる想定できない状況、300名を超える関係者の数。心が折れそうになりながらも、逃げ出さずに頑張りぬいた委員長を見て、道中穏やかでないシーンも多々ありましたが、良い思い出となりました。

また、事業を通して関係が深まった、豊川稲荷、商店街、連携する企業、ご支援いただいた方々とは今後も、まちをより良くするための仲間となれた気がします。

「自分たちのまちは自分たちで良くする」という本年度の大きなスローガンは、本事業の活動の中でいつも中心に据えて活動してきましたが、同じような志を持つ人との出会いは、人生における精神的支柱ともなると思います。

今後も、縁日参りプロジェクトが継続されるよう、本年度を忘れず関わってまいります。